

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(114)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(114)—

1. 始めに

前報(113)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は声楽曲です。

EURODISC OX-1005-K

モーツアルト 歌曲集

ペーター・シュライヤー (テノール)

イエルク・デムス (ピアノ)

エールハルト・フィーツ (マンドリン)

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

EURODISC 盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきました。

テノールのシュライヤーの歌唱は、ある時は甘く、また切なく、さらに力強くと、感情移入も豊かに明晰に歌います。

デムスのピアノは明るく、明晰な音でシュライヤーの歌唱とマッチしています。フィーツのマンドリンもリアルなピックを聴かせてくれます。

上記のように EURODISC 盤のクリアな音質が十分に再現されています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/